

《解答》

一 作文

問1 工

問2 ウ

問3 (省略)

二 論説文

問1 a 危険 b ひんぱん c うむ d 捨(て)

問2 結構・起き・い

問3 小さな変化・突然変異・種

問4 ア

問5 ウ

問6 「例」他の分野や事象にも応用して用いられる(十八字)

問7 ア

三 小説

問1 イ

問2 工

問3 ウ

問4 ア

問5 「例」好きなことをやってみようということ。(十八字)

問6 イ

問7 ウ

四 古文

問1 すなわち

問2 瞬かざる・視

問3 工

問4 イ

□ 作文

問1 それぞれの発言内容と「文章」「資料」の内容を照らし合わせる。イヤウの選択肢は誤りと判断しやすいだろう。

問2 アは「早く結論をまとめようとしている」、イは「後半も引き続き同じ内容で」、エは「一人ひとり順番通り」などがそれぞれ適さない。

問3 (省略)

□ 論説文

問1 (省略)

問2 自立語は単独で文節を構成できる語である。付属語である助詞・助動詞以外の語を抜き出せばよい。

問3 第一～第四段落の内容を正確に読み取る。

問4 ダーウィンの進化論がどのような影響を及ぼしたのかということについては、傍線部の後から詳しく述べられている。

問5 傍線部を含む段落の内容を正確に読み取る。「自然科学とは縁のない人たちの間でも」などの部分に注目しよう。

問6 傍線部②の二文後の文に注目すればよいだろう。進化論が生物の進化という領域にとどまらず、様々な分野に応用されてきたという内容が述べられている。

問7 イは「進化論を批判」、ウは「筆者と反対の意見も交えながら」、エは「言葉を使うことには楽しみがなければならぬ」と結論つけている「などの部分が適さない」。

三 小説

問1 二重傍線部の「ら」は可能とできるの意味である。

問2 アは「妙な言いがかりをつけられ」、イは「嘘をついてしまったことを母に見抜かれ」、ウは「腹を立てている」などの部分が適さない。

問3 アは「母の言動が自分を責めている」「、イは「軽い気持ちでやったいたす」「、エは「隠し通せると得意になっていた」などの部分が適さない。

問4 傍線部の前後に正太郎の心情が述べられている。

問5 母は4番目の発言で「好きなことやってへくれてたら、それいいと思う」と述べている。

問6 正太郎と母との会話から、正太郎の心情が想像できる。

問7 アは「子供のような人物」、イは「すべての確に答えを示し」、エは「計算高い人物」などの部分が適さない。

四 古文

問1 古文における語頭以外の「はひふへほ」は、現代仮名遣いで「わいうえお」となる助詞の「は」「へ」「は除く」。

問2 飛衛の発言中の「字ぶ」という言葉に注目すればよいだろう。

問3 傍線部前の「天下で自分に匹敵する腕前を持つものは誰かと考えてみる」という部分に注目する。

問4 本文後半の内容を正確に読み取る。